

「第2回市民と市長のふれあいトーク」対話概要

団体名	生活クラブ虹の街
実施日時	平成26年6月26日(木)午前10時30分～12時
実施場所	長浦公民館
出席者	生活クラブ虹の街 6名 市長・秘書広報課 2名

石鹼の利用と再生可能エネルギーの取組みについて

市長：ふれあいトークは、直接私が市民の皆さんのご要望を聞き、市の事業、政策に反映する趣旨で始めました。今日は、皆さんからの事前のご質問について回答を含めた意見交換をし、その後、市の様子をわかりやすく書いた資料でお話しをさせていただきたいと思えます。

最初の質問は、袖ヶ浦市で、現在、最も力を入れている環境政策ということで、お答えします。水環境関連では、生活排水や工業排水をきれいにする公共下水道の整備を行っています。下水道が整備されている地域は市街化区域で、市として下水道整備を決定している地域です。本管を整備しても接続をしないアパート等が若干あるため、下水道への接続割合を表す下水道接続率は96パーセントです。



ふれあいトーク資料の7ページに、公共下水道・農業集落排水の普及状況が書かれていますが、袖ヶ浦市は72.5パーセントです。これは、市内全体で、公共下水道と農業集落排水の両方を合わせた接続の割合です。袖ヶ浦市は、木更津市、君津市、富津市、市原市と比べて飛び抜けて下水道や農業集落排水が整備されている状況です。

農業集落排水とは、下水道を整備することができない市街化調整区域に整備する、下水道と同様な仕組みであり、整備されたところでは接続率が70パーセントと、水環境に対して配慮をしているということが言えます。それ以外の所では個々で合併浄化槽を設置するよう、市から補助金を出し、排水について配慮しています。また、家庭や事業所からの排水をきれいに

するよう、事業所への立ち入り調査の実施や小櫃川等の水質の監視・調査を行っています。

水以外で環境に配慮している事業は、資源回収です。ゴミステーションや、団体・自治会での回収による再利用です。ゴミの削減にも取り組んでおり、生ごみ処理では、処理器の設置に補助金を出しています。また、剪定した樹木をゴミとして出さないよう粉碎機の貸し出しを行い、昨年は42件、3260Kgが肥料化という形で利用されています。

2番目の質問、化管法（PRT法）による特定の有害物質の規制については、袖ヶ浦市の場合、大気中のベンゼンやトリクロロエチレンなど、資料に記載の物質について定期的に測定をし、「袖ヶ浦の環境」の中で公表しています。このような特定の物質については、ある程度の排出をする事業者は国への報告が必要であり、国が取りまとめています。これ以外にも市のホームページで公表しています。

3番目の質問、学校での手洗いには無添加の石鹸の使用が望ましいが、市内小中学校での状況はとのご質問ですが、学校では、固形石鹸、いわゆるレモン石鹸もしくは液体泡状石鹸を使っています。子供の簡単な手洗いの場合には、固形石鹸では成分が十分に行きわたらず、殺菌作用が不十分な場合があるため、ポンプ式の泡状液体石鹸が望ましいという保健所からの指導により切り替えているところがあります。経費がかかりますが、できるだけ変えていきたいと思っています。

また、プール掃除時の合成洗剤の使用については、今は水道水を使って洗浄しており、児童が直接洗剤を使った清掃は原則として行っておりません。汚れのひどいところはクレンザーや液体塩素などを薄めたものを、教職員あるいは保護者が使用するケースはありますが、児童がプール内で使用するケースはありませんので、児童に悪影響はありません。

次に4ページ、再生可能エネルギーの導入、CO₂削減、省エネルギーの施策の実績、計画、特徴的なプランについてです。

まず、CO₂などの温室効果ガスの削減については、平成24年度の実績で申し上げます。平成13年度以降「袖ヶ浦市地球温暖化対策実行計画」を作り、市の施設の排出量の削減目標を決め、結果を公表しています。現状の計画は平成22年度の排出量を基準にし、平成28年度までに市の公共施設の排出する温室効果ガスを6パーセント削減することを目標にし

ています。平成22年度から比較すると671,692kg、主たる原因となるCO2量を7.38パーセント減らしました。

ハード面の対策としては、ガウランドでは地熱を利用し、原油換算にすると一年で17.5キロリットルのCO2を削減しています。下水道施設では、ファンを新しい効率的なものに替えたことにより電気の使用量を下げ、エネルギー使用量を削減する取り組みを行っています。設備を効率の良いものに変えることによりエネルギーの節約ができるので、空調設備などを順次替えたいところなのですが、一度には変えられません。

また、再生可能エネルギーでは、個人宅の省エネルギー設備に対して2つの制度で補助金を出しています。1つ目は、太陽光発電システムを設置する方に、キロ当たり2万円、上限7万円の補助をしています。2つ目は、住宅用燃料電池システム、通称エネファームへの補助です。平成25年度の補助件数は、太陽光発電システムが106件、エネファームが17件でした。平成26年度は前年度よりも予算を増額し、再生エネルギーの使用、省エネを推進しています。

再生エネルギー2番目の質問、市の施設における電力会社との契約で、東京電力以外の小規模な自由な発電を利用している電力会社PPSとの契約割合については、小中学校の学校施設及び市役所の本庁舎は東京電力以外との契約をしており、決算ベースの金額では、市の施設の使用量の約17パーセントです。

自治体等で小さな発電設備を作る電力会社の立ち上げや、発電事業者になる「ご当地電力」については、袖ヶ浦市はまだやっていません。市の施設の屋根を貸した太陽光パネルの設置は、今年度、中長期的な導入方針を決めていく予定です。

虹の街：袖ヶ浦市の下水道や農業集落排水の普及率がこんなに高いとは初めて知りました。

市長：下水道は目に見えないから気が付きませんが、今度機会があったら下水道処理施設を見学してください。皆さんの家庭の近くまで本管が行き、そこに各家庭が繋ぎこんでいます。しかし、特にアパートでは、本管が行っているのに繋ぎこまずに排水を側溝に流している人がいます。下水道使用料を取られるので拒否していますが、繋ぎこまない人は、きれいな水や海を目指す皆さんの努力や市への協力に反し、義務を果たしていないとい

うことになります。

虹の街：それは、借主でなく貸主の話ですね。

市長：新しいアパートは繋ぎこんでくれています、そうでないところもあるのが実際です。下水道が普及しているところは効率がいいため都市化されています。本管へ敷設する距離が短く、処理場に近い。途中が平坦ならばポンプの上げ下げも不要で労力もかからず、一軒あたりが安く敷設できます。

都市化されている東京や市川は普及率がいいはずで、水道も同様です。水道料金や下水道料金が安いのはなぜかというところ、そういうところは効率的に敷設されているからです。田舎の方に行くと長い距離、メーターあたり何十万円もする掘削をする必要があり、市も予算が限界になり、個人負担もかかるため、なかなか普及しません。

虹の街：市原市に比べ、料金が若干高いような気がしました。

市長：市原市は普及率が高く、水道は県営水道を使っています。県営水道は、住宅密集地しか整備していません。袖ヶ浦市では、ごく一部だけ県営水道が入っていますが、あとは袖ヶ浦市の水道ですから、効率の悪い場所を整備していかなくてはなりません。県は効率の悪いところは整備しませんので、市原市もおそらく住宅密集地だけ県営水道です。料金が安いのは、県営水道の料金を県に支払っているからです。

虹の街：なぜ高くなったのかと思いました。

市長：使用料も、袖ヶ浦市は累進的に使えば使うほど高くなります。節約を促す意味で高くしています。

市原市は人口約27万人と、袖ヶ浦市の約6万人に比べ5倍程ですが、下水道の普及率は、効率的なところだけをやっています。市原市は広いのですが、人口密集地だけ下水道を整備し、農業集落排水はありません。袖ヶ浦市は市街化調整区域は農業集落排水です。農業集落排水の所管は農林水産省で、下水道は厚生省と所管が違いますが、一部合体し、下水を処理場に繋ぎこんでいるところもあります。農業集落排水事業は手あげ方式で、やりたいという合意形成ができた地域だけやっています。設備費の2

0何万かの負担金や、使用料の支払いをしなくてはなりません、合併浄化槽なら使用料は払わなくてよいです。しかし、合併浄化槽は年1回掃除をしなくてはなりませんので、その分が使用料と解釈すれば、長い目で見ると下水道のほうがコストが安くなります。

虹の街：アレルギーが多く、化学物質や添加物でアレルギーが出ます。せっかく無添加のものがあるのであれば使っていただきたいと思います。蔵波小では白い固形石鹼を使っています。去年、胃腸炎などの感染症が流行した時期には、泡状の物で洗うようにと指導されましたが、今は石鹼に戻っています。

市長：泡状の物の方が良いのですが、すぐに使い切ってしまう。1回に使う量が多いのです。

虹の街：ポンプ式の泡石鹼は、おそらく合成洗剤です。自治体によっては、メーカーが無料で配布していて、幼稚園等はそれで賄えます。公的なところでは無駄遣いにならないよう、一番安いものを利用しています。

市長：安全が確保されていて、なおかつ安い物がいいのですが、なかなかありません。

虹の街：今日、子供が浄水場の見学に行っています。

市長：君津広域水道企業団が川から水を汲み上げ、きれいにしています。袖ヶ浦、木更津、君津、富津、一部県営水道に水道水を送るための組織があり、浄水場は木更津市の大寺にあります。その施設を見に行っていると思います。それ以外に、袖ヶ浦市では3割から4割を、井戸から汲み上げて水道水にして供給しています。

虹の街：個人の井戸ではないのですか。

市長：個人の井戸ではなく、市の井戸です。大きなポンプで汲み上げ、浄水施設を経由し、タンクに貯めて圧力をかけて配水します。

虹の街：袖ヶ浦市では、メダカがたくさん泳いでいて驚きました。

市長：メダカは、水が腐ると死んでしまいます。今の時季、産卵をして増えます。ホテイアオイの根やシュロの皮に卵を産み付けます。昔は田んぼにたくさんいましたが、今ではいなくなってきました。川原井の方に行くと蛭もいます。袖ヶ浦市は人口が増えています、平岡・中川・富岡地区は子育て世代が減っていて、幽谷分校は存続の危機になっています。今年度から小規模特認校として市内全域から通えることになり、児童数が増えましたが、複式授業の場合もあり得るので、よし悪しは色々あると思います。

虹の街：不登校になってしまった子が、幽谷分校に通学しています。

市長：そのような理由で通う子もいます。中には、分校の地区なのに、本校の平岡小学校に通わせる場合もあります。

虹の街：少人数ならではの良さがあると思います。

市長：施設はとても立派で、整備されています。

(ふれあいトーク資料の説明)

虹の街：皆さんから、感想と質問をお願いします。

虹の街：袖ヶ浦市は工場が多いので、工場に対する監視は引き続きお願いします。また、学校の石鹸は、アレルギー等皮膚疾患の子供が多いので、配慮していただきたいと思います。

虹の街：光化学スモッグなど空気の汚れを改善するためにも、マイカーの利用を減らすには、維持をするのが精一杯の今のバスの状況を、もっと便利に利用できるようにしたらどうでしょうか。合成洗剤をやめたら、手荒れが劇的に改善されました。便利さや使いやすさを追求し、体に悪いものを使い続けた結果、今の子供たちにアレルギーが多くなっていることあるので、責任を取る必要があります。

虹の街：5月末の運動会の最中に光化学スモッグ注意報が出ました。学校

から何も説明がありませんでした。工業地帯が多く仕方がないのかもしれませんが、もう少し空気がきれいだと思います。豪雨の際の排水対策など、気象災害への備えが必要だと思います。

虹の街：子供のアトピーが石鹼を替えたことで良くなってきました。学校でも使えるといいと思います。光化学スモッグについても同じ考えです。

虹の街：アレルギーになる理由は皮膚から入るものだと報道がありました。接触することにより体内に取り込まれるので、石鹼のほうがよいと思います。科学的な面からも検討してください。

虹の街：環境フェスタに参加したが、PR団体が少なくなり残念でした。継続した活動に苦勞が見えますが、別のイベントと組むなど、大きなものとできればと思いました。

市長：ご意見、ありがとうございました。市でできることはしっかりやっていきたいと思っています。

市民参画と協働をキーワードにしていますが、行政が様々な計画を作る際には、市民の皆さんからご意見をいただいて作り上げます。作り上げた計画に参画していただき、立ち上げ段階から意見を聞き、自分たちのことと意識して参加していただきます。市だけでできないものを協働でやっていこうという意味です。

市民参画と協働は進んでいて、環境フェスタは、最初は行政が主催していましたが、昨年から、関係団体が実行委員会を作り、行政はフォローに回って、団体主催で行っています。リサイクルの状況や椎の森工業地帯の環境をどのように守っていくのか、太陽光発電施設のメリットの研究などを自主的にやってくれています。行政主導でなく、計画段階から団体主導でやっていて、総合計画では計画段階から市民の皆さんから委員を出していただきました。地域福祉計画の策定についても、作り上げる段階から皆さんに参加していただいています。環境の改善についても、このような形で行ってきたいと思いますが、行政だけでは限りがあるので、工場についても基準を守ってもらうことが当然であり、自動車の排気ガスが課題です。

バスについては要望があるのですが、利用者の少ない路線を維持するには、自治体が補填する必要があります。平川行政センターへの路線には、年間4千万円ほどの維持費がかかっています。止めたいところですが利用

者がいるので、6月からコースや時間の変更などを見直して効率的にやっ
てもらおうようにしたものの、極端に赤字は減りません。要望は出るものの、
実際に利用するかというと難しいです。

公共施設では、できるだけ石鹸の利用をしていきたいと思います。

食べ物のアレルギーは最近多く、新しい給食センターでは、アレルギー
食に対応できるようにし、一般の人が見学できる食育機能を持っています。

災害については、去年の26号台風でのデータを元に対策を行ってい
ます。

皆さんからいただいた意見を反映できるよう頑張っていきたいと思
います。今日はありがとうございました。